

## 武蔵野市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画策定専門部会（第1回）会議要録

○ 日時	令和5年5月11日（木） 午後6時30分～午後8時30分
○ 場所	武蔵野市役所西棟1階111会議室
○ 出席部会員	山井理恵（部会長）、久留善武（副部会長）、谷口勝哉、佐藤博之、稲住成由美、浅野彰、佐藤清佳、福田耕三、松村勝人、渡辺紀子
○ 事務局	健康福祉部長、高齢者支援課長、相談支援担当課長、地域支援課長、生活福祉課長、障害者福祉課長、保健医療担当部長（兼健康課長）、保険年金課長、福祉公社参事他

### 1 開会

### 2 委嘱状交付

事前に机上配付のうえ、委嘱状が交付された。委嘱期間は令和5年5月1日から令和6年3月31日である旨、説明がなされた。

### 3 市長挨拶

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行が始まってから3年以上が経過し、5月8日からは感染症が5類に見直されるなど、私たちを取り巻く環境というのは見直されつつある。一方、外出自粛などの結果、高齢者への健康面の懸念はある。

武蔵野市ではコロナ禍においても、一人一人の命を守り、誰もが安心して暮らし続けられるまちぐるみの支え合いの実現を目指す第6期長期計画及び第8期介護保険事業計画に基づき取り組みを進めてきた。

現在の高齢者福祉計画・介護保険事業計画につき、サブタイトルに「まちぐるみの支え合い」を打ち出した。その中で、団塊の世代の皆様が後期高齢者となる2025年に向けた、武蔵野市が目指す高齢者の姿の大きな柱として、「いつまでもいきいきと健康に」「ひとり暮らしでも」「認知症になっても」「中・重度の要介護状態になっても」誰もが住み慣れた地域で生活を継続できるように、と掲げている。

計画期間においては、既存施設の改修により特別養護老人ホームの定員を15名増加。また、令和4年度から健康長寿のまちを推進するため、9月を従来の認知症を知る月間から、「健康長寿のまち武蔵野推進月間」と名称を変更し、「楽しく！元気に！長生き!!」とスローガンを掲げた。高齢者を中心に幅広く市民へ、認知症及びフレイル予防の普及啓発を行い、健康づくりを実践できるきっかけとなる様々な事業を実施している。

第9期の計画策定にあたり各種実態調査を実施している。「高齢者の介護予防・日常生活アンケート調査」「要介護高齢者・家族等介護者実態調査」など6つの調査を実施。報告書を配付もしているのでご確認いただきたい。なお、「独居高齢者実態調査」は現在実施中であり、民生児童委員の皆様をお願いをし、各戸訪問を行っている。

本日お集まりの高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画の専門部会員の皆さまにおかれましては、本市の高齢者福祉について熟知いただいている武蔵野市地域包括ケア推進協議会の委員の方にも多くご参加をいただいている。約1年間大変な作業になると思うが、本市の抱えている現状や課題について、率直なご議論をいただき、よりよい計画となるようお願いしたい。

### 4 配布資料の確認

## 5 部会員及び事務局自己紹介

## 6 武蔵野市健康福祉施策推進審議会及び専門部会について

資料2「武蔵野市健康福祉施策推進審議会設置条例」「武蔵野市健康福祉施策推進審議会設置条例施行規則」「武蔵野市第4期健康福祉総合計画・第6期地域福祉計画専門部会等設置要綱」「武蔵野市健康福祉施策推進審議会専門部会 部会員（案）」について事務局が説明。

## 7 部会長・副部会長選出

資料2「武蔵野市健康福祉施策推進審議会設置条例施行規則」第3条及び第6条に基づき、部会長に山井部会員（明星大学人文学部教授）、副部会長に久留部会員（一般社団法人シルバーサービス振興会事務局長）が互選された。

部会長から「新型コロナウイルスが少し落ち着きを見せて安心しているなか、今朝地震が起きた。武蔵野市でひとりで暮らしている方は非常に不安になっているかと思う。武蔵野市ではまちぐるみの支えあいということで、地域包括ケアシステムを推進してきた歴史がある。少しでもシステムづくりに貢献したい」との就任のあいさつがあった。

副部会長から「厚生労働省の外郭団体であるシルバーサービス振興会に30年在籍している。着任当時は介護保険制度の検討段階であり、その後の制定・施行にも携わってきた。この計画策定は、武蔵野市の介護保険の概要及びどう運営していくかについて市民に示す重要な計画だと認識していることから、フォローをできればと思う。」との就任のあいさつがあった。

## 8 議事

### (1) 武蔵野市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画専門部会の公開・運営に関する確認について

資料3「武蔵野市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画専門部会の公開・運営に関する確認（案）」による事務局説明の後、承認された。

### (2) 武蔵野市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画専門部会傍聴要領について

資料4「武蔵野市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画専門部会傍聴要領（案）」による事務局説明の後、承認された。

### (3) 武蔵野市健康福祉総合計画・各個別計画策定スケジュールについて

資料5「武蔵野市健康福祉総合計画・各個別計画策定スケジュール（案）」による事務局説明の後、承認された。

### (4) 高齢者福祉計画の進捗状況について

### (5) 第8期介護保険事業計画 給付実績及び見込みについて

資料6「武蔵野市高齢者福祉計画の進捗状況」「武蔵野市第8期介護保険事業計画 給付実績及び見込みについて」により事務局が説明。

【部会長】高齢者等緊急訪問介護事業（レスキューヘルパー事業）の実績につき、令和2年度3件、令和3年度2件に対し、令和4年度は20件まで増加。どのような要因が影響しているのか。

【事務局】制度自体を変えたということではない。ケアマネジャー含め当事業の認知度が上がったことも要因のひとつと考える。また、第7波・第8波の影響もあると考える。感染拡大時には市への問合せも増加した。

令和2～3年度は一人の方が長く利用するという傾向があったが、令和4年度は短期間で多くの方が利用し、利用件数も増加した。

【副部会長】第8期介護保険事業計画の実績について私見も含めて補足したい。計画値を超えているかという観点も、ひとつの評価の観点ではあるが、見方を変えれば異なる評価となる。介護保険が難しい在宅重視の介護について、武蔵野市は残念ながら土地制的な制約もあり施設サービスは増やせない状況。元来介護保険制度は在宅重視を謳い開始された。地域住民、市民においては住み慣れた地域で暮らし続けることを願っている。見方を変えれば、計画値を超えるということは在宅介護が実現できているとも捉えられることを補足したい。

【事務局】十分に説明できていなかった点を補足いただき、感謝申しあげる。コロナ禍において、外出できないという機会が増えてしまい、在宅サービスの利用が増加するという全国的な傾向がある。本市においては、訪問介護・訪問看護で利用する「福祉用具貸与」「福祉用具購入」の実績が多かったことが特徴的。在宅での生活をより良くするためのサービス実績が増加した。コロナ禍自体は国民・市民にとって厳しいものだが、在宅サービスの充実に繋がった点は評価したい。

【副部会長】コロナ禍においても、サービスを途絶えずに提供できたことに感謝したい。病院に移すことが厳しい環境のなかで、施設内でご尽力いただいたかと考える。前述の評価と併せて、計画値を超えたことが一概に悪いことではないと伝えたい。

【部会員】「家族介護用品支給事業のアセスメントの強化」の利用実績はどの程度か。住民税が非課税という条件があるため、近隣の市区町村と比較し利用しづらいか。

【事務局】令和4年度の月平均利用者数は193人である。

【部会員】武蔵野市高齢者福祉計画の進捗状況につき、委託や社会福祉協議会に関する報告がない。他の自治体については、社会福祉協議会が介護事業をしているところも多いためかもしれないが、連携状況について把握したくご教示いただきたい。

【事務局】他の自治体においては、介護事業を担っている社会福祉協議会が多いが、本市においては、武蔵野市福祉公社が担っている。フォーマルサービスは福祉公社が、インフォーマルサービスは市民社会福祉協議会が担っている。市民社会福祉協議会の実施内容の例として、レモンキャブ、テンミリオンハウスの運営をお願いしている。また、高齢者施設等におけるボランティアを実施いただいた方に付与しているシニア支え合いポイントなども担っている。以上より、武蔵野市においても市民社会福祉協議会と連携のうえ介護事業を進めている。

【部会員】市民社会福祉協議会では、小中学校で「認知症サポーター養成講座」を行っている。市民の高齢者福祉の一環として、報告資料にも反映いただきたいと考える。

【部会員】「老人クラブへの活動支援」につき、実績推移を確認すると老人クラブ数は横ばい、老人クラブ会員数は減少傾向。実際に地区の方から、「参加者が少なく解散となってしまった。一部のイベント（コーラスなど）は継続して開催して欲しいが行き場がない」という話を聞いた。対策として福祉の会でも案内チラシを配布し参加要請などを行っている。会員数が右肩下がりであること、高齢の方がクラブ活動場所まで移動することの大変さなどを鑑み、制度自体見直す時期に来ているのではないかと考える。

【事務局】ご指摘のとおり、ここ数年老人クラブ数・会員数の減少は課題となっている。要因として、コロナ禍で活動自体縮小してしまった、役員・会長の担い手の減少などが挙げられる。その他、60歳代の方は現役の方が多く、70歳代の方も出向く場所が多様化しているといった要因も考えられる。

指摘にあがった、カラオケ発表、コーラスに参加したいという要望もある。活動の周知、好事例の横展開等は本市においても実施していく方針。

【部会員】「地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護」の実績が0%となっている理由をご教示いただきたい。

【事務局】「地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護」について、定員が29名以下の小規模の介護老人福祉施設が対象となっており、市内には存在しないため、実績がない。定員が30人以上の施設は「介護老人福祉施設」に該当し、市内にも存在しているため、特別養護老人ホームの入所が全くないという訳ではない。

【部会員】「外国人介護人材の育成支援」について、外国人材の育成に注力している施設等も多く、国も実習制度の見直しを実施しているという現状。武蔵野市として、今後の外国人介護人材に対する方針、現在の状況についてご教示いただきたい。

【事務局】課題として、「言語」「生活習慣」「宗教による習慣」等が挙げられる。具体的な人数としてはあまり多くないが、特別養護老人ホームでの担い手が比較的多い。本市に在住する外国人は、日本国籍の配偶者の方が多いのが特徴。

#### (6) 武蔵野市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画策定に係る考え方について

資料7「武蔵野市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画策定に係る考え方」により事務局が説明。

【部会員】「介護人材の確保」について、どのようなことが求められているのか。

例えば、初任者研修（旧ホームヘルパー2級）、20年程前武蔵野市が無料で養成・支援を実施するなど、時間・費用等をかけていたことがあった。現在はどのようなことにコストをかけ注力しているのか。

【事務局】初任者研修につき、現在も福祉公社にて研修を実施している。市内の事業者で働く場合は、研修費用を負担している。

「介護人材の発掘と定着支援」として、有資格者の再就職、福祉分野の新たな就職に対する支援策として「介護職・看護職 Re スタート支援金事業」を展開。令和3年度実績は、「45名、555万円補助」となっている。

本市の大きな施策のひとつとして「地域包括ケア人材育成センター」を設置。

人材の「量」だけでなく「質」の確保も重要と考えている。人材の確保とともに、介護保険制度発足当初から運営している連絡会とも協働していく方針。

【部会員】今年度からケアプランデータ連携システムの導入を行うこととなっているが、費用がかかるほか、居宅のケアマネから進めていかねば他の事業者には浸透しないと考えている。武蔵野市としてどのように普及・推進していくことを検討しているか。

【事務局】国が進めているケアプランデータ連携システムにつき、全事業者が加盟することで効果的に進むものと認識している。事業者の皆さまに導入いただきたいと考える反面、費用もかかるため難しい点もあろうかと思う。

システムのメリット・効果や、利用による業務の削減等を事業者の皆さまに丁寧に説明していく方針。

【部会員】介護職員の処遇改善は進められているが、ケアマネジャーの処遇改善は離職にも大きく関係があると思うがどのような状況か。また、国の制度だけでなく、武蔵野市独自の取組みなどがあればご教示いただきたい。

【事務局】介護職員の処遇改善・賃金につき、制度設計は国が行っている。第一義的には国が行うべき課題として認識しているものの、本日報告する実態調査の結果及び計画策定内で挙げてきた課題等は、課長会・部長会等を通じて必要に応じて国へ意見・要請をしていく所存。

本市独自の取組みとしては、ケアリンピック武蔵野等を通じて、職員の皆さまがや

りがいを持って取り組めるよう工夫していく。  
Re スタート支援金については、開始当初の令和2年度はケアマネジャーは対象としていなかった。皆さまからの意見を踏まえて、制度を見直し、ケアマネジャーも対象としたという経緯がある。

#### (7) 各調査の概要について

資料8「武蔵野市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画の策定に係る調査の概要」資料9「高齢者の介護予防・日常生活アンケート調査」「要介護高齢者・家族等介護者実態調査」資料10「ケアマネジャーアンケート調査」「高齢者の在宅生活継続調査」資料11「介護職員・看護職員等実態調査」「介護施設等における入退所調査」資料12「独居高齢者実態調査」により事務局が説明。

#### 9 その他

【事務局】時間の都合上、本日承れなかった意見・質問については、配付の意見質問書に記載のうえ事務局宛送付いただきたい。  
第2回専門部会につき、令和5年6月15日午後6時30分に開催する。

以上